

質疑応答:今期末の在籍人数の見込みと採用コストについて

在籍人数 (単体)



前年同期比

+862名 (+5.6%)

ポイント

上場来、最高在籍達成

- ・ 退社抑制もあり在籍人数は上場来、最高。
- ・ オートモーティブの人材ニーズは堅調、在籍人数増加を牽引。



Copyright © 2022 NISSO CORPORATION. All Rights Reserved

14

質問者: 採用関係は大変厳しいところがあるというご説明でしたが、今期末の在籍人数はどのあたりを見込んでいますか？ また、1人当たりの採用にかかるコストは上がってきていますか？

清水: 期末在籍人数の目標値としては1万7,000名を少し超えたあたりを想定しており、年間で1,000名強の増員を予定しています。

採用環境は、オートモーティブを中心に引っ張っていますが、今後、メニューにデバイス系が増えてくると、1万7,000名を超える人数が視野に入ってくると考えています。

採用コストについては、今年が多めに見込んでいました。今後1,000名を増やすという目標を達成するにあたり、9月、10月、11月はそれなりにコストを投下する予定ですので、1人当たりの採用コストも少し上がるのではないかと考えています。

質疑応答:第1四半期の営業利益の季節性について

2024年3月期 第1四半期 連結業績ハイライト

(単位:百万円)

ポイント

営業利益、対前年同期比92.9%増加

- ・在籍数の増加、オートモーティブでの緩やかな稼働回復もあり売上高は、15.4%増加。
- ・その他の事業（介護・福祉系サービス）は前年同期比で増収増益。

	23年3月期 第1四半期		24年3月期 第1四半期		対前年同期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	20,501	100.0%	23,660	100.0%	3,158	15.4%
売上総利益	3,114	15.2%	3,722	15.7%	608	19.5%
販管費	2,854	13.9%	3,221	13.6%	367	12.9%
営業利益	259	1.3%	500	2.1%	241	92.9%
経常利益	313	1.5%	511	2.2%	197	62.9%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	182	0.9%	316	1.3%	134	73.8%

Copyright © 2023 NISSO CORPORATION. All Rights Reserved

5

質問者：第1四半期の利益水準について、営業利益は5億円となり、通期見通しの36億円に対して、例えば採用費が出たり稼働していない新人がいたりすることもあると思いますが、季節要因は例年より強く出ていますか？

清水：営業利益は、当初は連結で4億円くらいになるのではないかと予想していましたが、結果として想定より1億円くらい上に出ています。いろいろなコストがかかってはいますが、募集コストがそれほどかからなかったことが要因の1つです。

第1四半期は、4つの四半期の中で最も利益が出にくい期間です。暦上、月の稼働時間が短いことからすると、この状況の中で5億円を出せたことは決して悪い状況ではないと考えています。

現在はオートモーティブを中心に引っ張っている状態のため、下期で他の2つのインダストリーが正常な状態に戻り、両方で売上を引っ張って利益を出せるようになると様変わりしてきます。通常、利益は上期を1とすると下期は2倍ですが、今年はおそらく上期に対して下期は2.5倍くらいのレベルになるというシミュレーションで進めていますので、決して遅れてはいないと考えています。

質疑応答:製造生産系人材サービスの稼働状況について

質問者：人材の稼働状況について、特に製造生産系人材サービスの稼働率は比較的順調に回復しているというご説明でした。単価も引き上げて1人当たりの売上高が増加していますが、1人当たりの平均

稼働時間は月180時間ほどで低いということでした。どのような状況なのかを具体的に教えてください。

清水：一部の自動車メーカーは半導体調達が比較的順調になってきているため、稼働時間が低いとは言いながらも、残業時間は通常の9割くらいに戻ってきています。

しかし、それ以外の自動車メーカーはなかなか挽回生産できず、結果として全体で見ると時間外労働は正常時より7割から8割くらいの状況です。

また、エレクトロニクス系や半導体メモリの分野では、従来の残業時間のおよそ半分です。1人当たりの残業時間が半分減るということは、売上にも収益にも大変大きな負のインパクトを与えています。

質問者：稼働人員数は比較的順調とのお話ですが、残業だけ減っているというのはどのような状況なのでしょう？

清水：常用雇用のため在籍数イコール稼働人員数となりますので、100パーセント稼働していることとなります。

自動車関連、電子関連ともに、計画通りの生産となっていますが、残業をフルに使った生産活動までには至っていません。

具体的には、半導体やエレクトロニクス系は、在庫調整の関連で、また、自動車関連は、パワー半導体を含めたキーデバイスがなくなってしまうためと捉えていただければと思います。

質疑応答：新卒エンジニアの稼働状況について

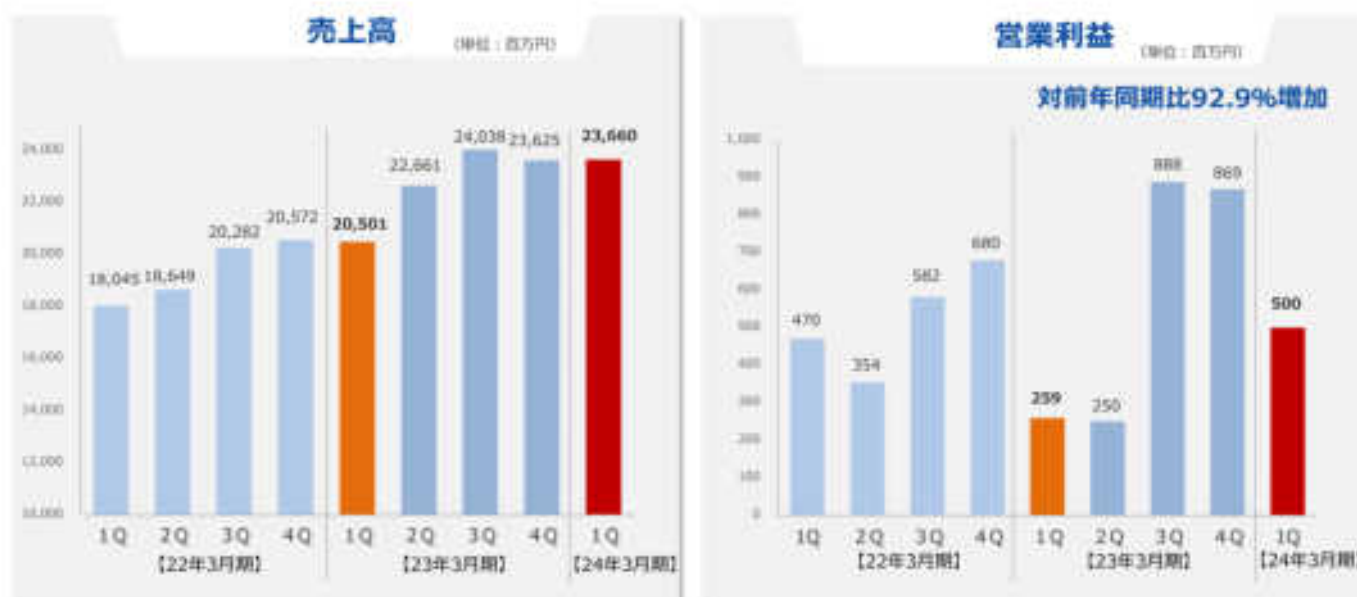
質問者：今年の新卒エンジニアは128名で、7月以降はそのうちの70名ほどが稼働するというお話でした。2ヶ月くらいの研修を経た7月末時点で半分くらいが決まっているということだと思いますが、順調に進んでいると捉えてよいのでしょうか？

清水：私は順調に進んでいると理解しています。7月以降、設備保全系や設備エンジニアを中心に70名の配属が決まりました。新卒ということで、やはり個人差はあります。お客さまとは絶えずアクセスを取りながら基本的なスキルの習得度合いを見て、順次、本配属を行っています。

128名の方々が配属されずに研修だけを受けている状態から、半分以上の70名の方々が配属になるのは決して遅くなく、ほぼ通常ペースとなっています。

質疑応答:前四半期比で営業利益が大きく減っている要因について

2024年3月期 四半期単位の連結業績



Copyright (c) 2022 NISSO CORPORATION. All Rights Reserved

5

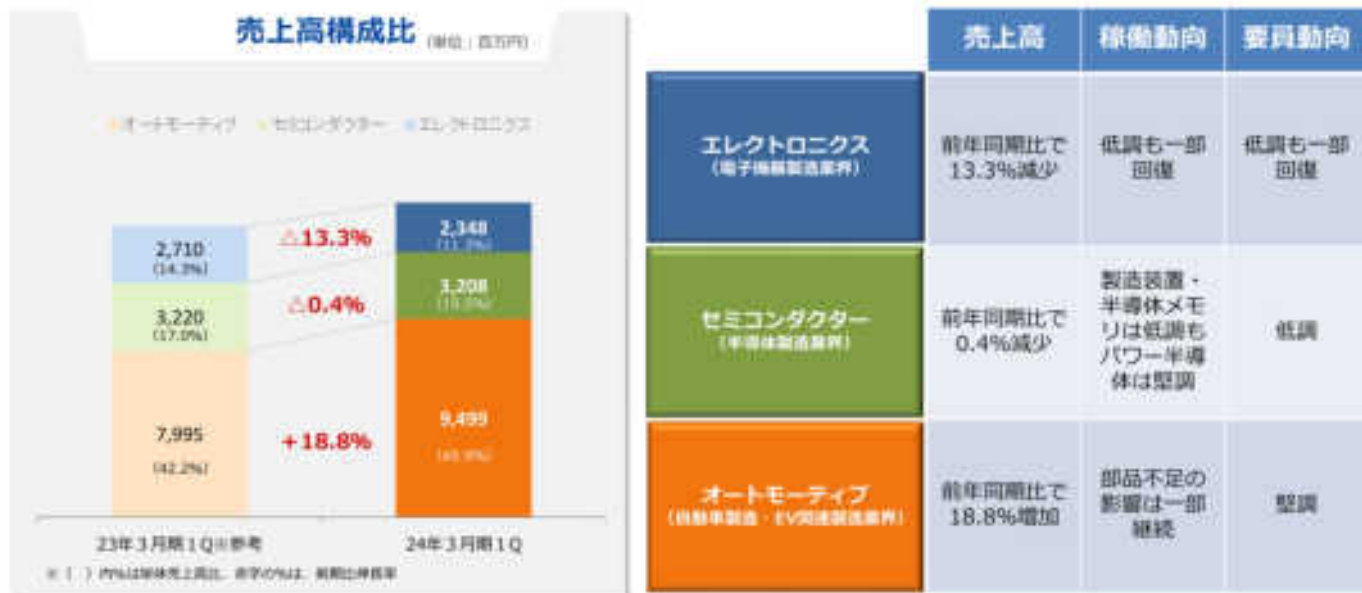
質問者: 売上高がほぼ同水準でありながら、営業利益が昨年の第4四半期の8.69億円から5億円に減ったのは、季節性ではなく何が要因だと捉えていますか？ 新規人材獲得コストが通常より多かったのか、あるいはその他の経費がかかったのかなど、費用面についての詳細な開示をお願いします。

清水: 連結売上の約90パーセント近くを占める、日総工産単体の費用をメインにご説明させていただきます。我々にとって第1四半期というのは、投資の時期になります。まず、原価については、新卒の入社および、第1四半期は、教育期間という事もあり原価が膨らみます。これにより売上総利益額が1億ほど下がっています。

また販管費については、販管人員増強ならびに処遇改善、新卒採用関連の調達コスト等もあり、結果、1億円程度増加しています。このことにより2億円程度営業利益が少ない結果となっています。ただ、これは例年のことであり、何か大きな経費等がかかったということではなく計画範囲内の費用となります。

質疑応答:インダストリー別売上高について

2024年3月期 第1四半期 インダストリー別売上高 (単体)



Copyright © 2023 NISSO CORPORATION. All Rights Reserved

11

質問者：インダストリー別売上高において、この第1四半期が終わった段階で組み換えた部分などがあれば教えてください。

清水：組み換えは行っていません。シミュレーションレベルではありますが、期末の着地についてお伝えしますと、エレクトロニクスとセミコンダクターの2つのセグメントは年間を通すと売上増になることを予測しています。

そのために必要なことは、インダストリー戦略にあります。従来のアカウント企業以外の会社をしっかり営業し、実際に人員を配属していくことが必要になります。半導体領域も受動部品領域もトレンドとしては右肩上がりだと予測しています。

Occurred on 2023-08-09, Published at 2023-08-23 15:00 ←

企業をフォローして通知を受け取る

日総工産株式会社

6569・東証プライム・サービス業

フォロー

#決算説明会

ログミーファイナンスとは

ログ掲載のご案内

利用規約

プライバシーポリシー

お問い合わせ

採用情報

運営会社

